

4. 環境関連情報による地域環境特性の 評価について（第4報）

八幡仁志，宮永信幸

I 緒 言

最近において住民の生活環境に対するニーズは、公害の防止や自然環境の保全に加えて、緑の創出や周辺環境と調和のとれた街並みなど、うるおいとゆとりのある快適な環境の創造へと向けられている。

そうしたなかで、地域の良好な環境を保全し快適な環境を創造していくためには、地域全体を広い視野からみつけ、総合的・計画的に考えていくとともに地域の環境特性を踏まえ、その特性を十分に生かした個性ある快適環境づくりを行なっていくことが大切である。

そのためには、まずそれぞれの地域における自然条件・社会条件・経済条件等が有している諸特性を正しく評価し、明らかにしておくことが必要になる。

当公害センターにおいても、環境情報データのメッシュ化作業¹⁾を継続して行うと同時に、環境関連情報による地域環境特性の評価²⁾³⁾⁴⁾を行っているが、本年度、環境データ等を含めて評価し快適環境特性を求めたので、その内容について報告する。

II 地域環境特性について

環境データおよび環境関連情報が有している保健、自然、社会・経済作用の評価基準⁵⁾等により、地域の環境特性（環境データから空気のさわやかさ－1，2，静けさ，自然データから緑化可能性、高燥・日照度，緑の豊かさ，積雪度，水害危険度，土砂災害危険度－1，2，排水・養分含量度，風化性，生育効率，耕作難易度，また経済・社会データから通勤容易性，買物利便性，医療・公共施設近接性の17項目）を求め、それらを評価（保健性，快適性，安全性，生産性，利便性）し，更にオーバーレイすることにより快適環境特性を求めた。

なお，評価指標としてSO₂濃度，NO₂濃度，騒音，土壌，地形，自然度，特定植物群落，積雪量，地質，標高，傾斜，起伏量，全産業事業場数，卸売・小売業事業場数およびサービス業事業場数の15評価因子を用いた。

図1に快適環境特性の評価手順，表1～7に各作用の評価基準を示した。

1. 保健性としての評価指標

(1) 空気のさわやかさ－1

観測局の自動測定機による常時監視結果（S59，年平均値），およびPbO₂法による簡易測定結果（S60）から，面データに変換された「SO₂濃度（区分）⁶⁾」を評価因子とした。

(2) 空気のさわやかさ－2

観測局の自動測定機による常時監視結果（S59，年平均値），およびTGS法による簡易測定結果（S60）から，面データに変換された「NO₂濃度（区分）⁶⁾」を評価因子とした。

(3) 静けさ

市町村で測定した騒音データから，スプライン法により面データに変換された「騒音（区分）」を評価因子とした。

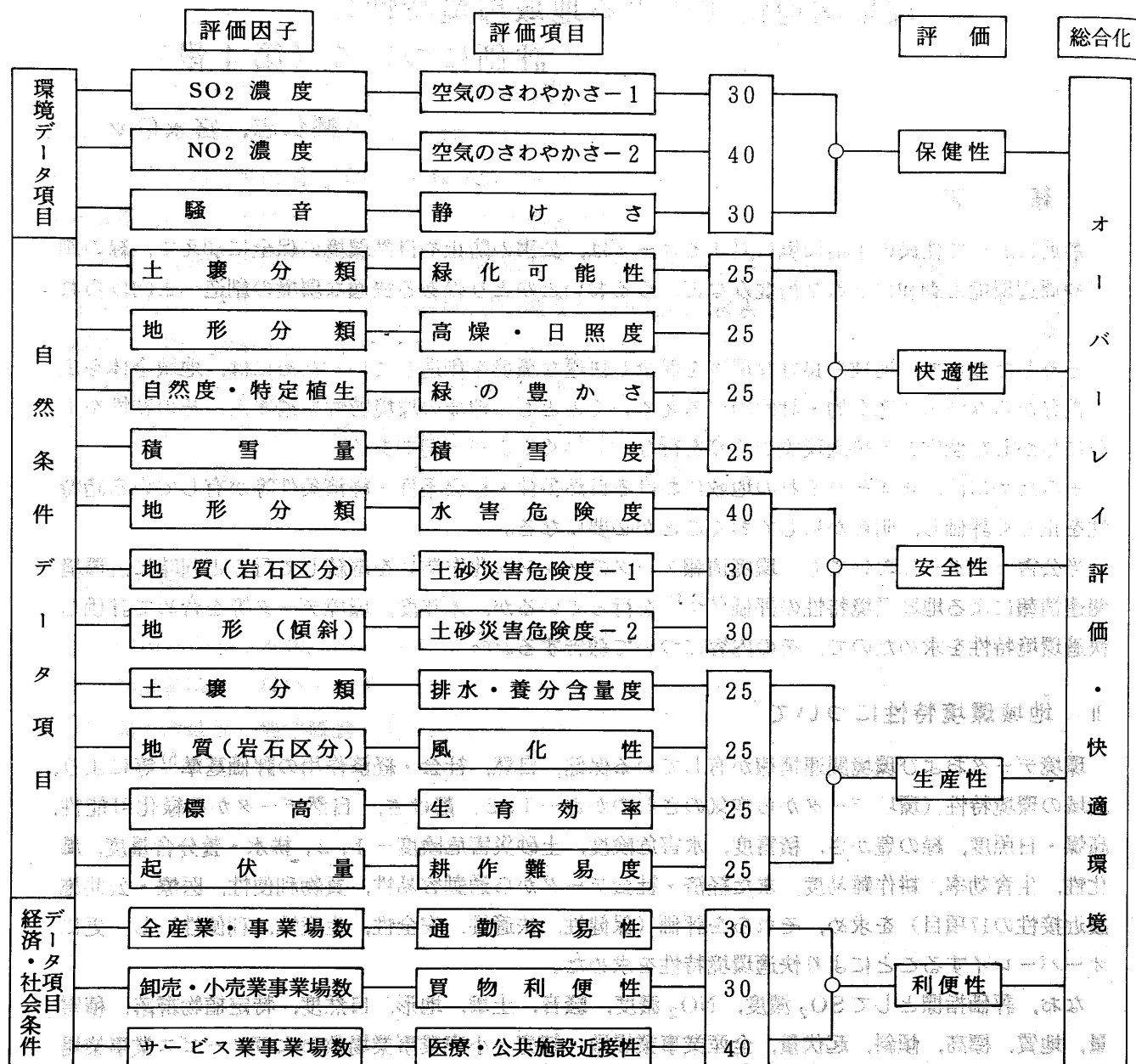


図1 快適環境特性の評価手順

表-1 保健作用の評価基準 (保健性 - 空気のさわやかさ-1)

評価軸	評価項目	評価因子	評価基準				
			1	2	3	4	5
保健性	空気のさわやかさ1	SO ₂ 濃度	0～4	5～9	10～14	15～	

表-2 保健作用の評価基準 (保健性 - 空気のさわやかさ-2)

評価軸	評価項目	評価因子	評価基準				
			1	2	3	4	5
保健性	空気のさわやかさ2	NO ₂ 濃度	0～4	5～9	10～14	15～19	20～

表－3 保健作用の評価基準（保健性－静けさ）

評価軸	評価項目	評価因子	評価基準				
			1	2	3	4	5
保健性	静けさ	騒音	0～20 (0～30)	21～30 (31～40)	31～40 (41～50)	41～50 (51～60)	51～ (61～)
数値は朝、夕、夜共通で（ ）内の数値は、昼の場合。 朝、昼、夕、夜の評価基準値をクロス評価して、静けさを求めた。							

2. 快適性としての評価指標

(1) 緑化可能性

土壌の排水・養分などの総合指標として「土壌分類」を評価因子とした。

(2) 高燥・日照度

高燥性については地表の乾湿状態や透水性を、また日照度については各地点における日照量を評価因子とすることが望ましいが、現実これらデータの広域にわたって整備されていない。したがって両者の代替指標として、地表の物質や水分条件・起伏状態の情報を総合的に表現している「地形分類」を評価因子とした。

(3) 緑の豊かさ

緑の豊かさについては自然環境の総合的な自然の分布として「植生自然度」、および貴重な植生の分布を示すものとして「特定植物群落」を評価因子とした。

(4) 積雪度

地域特有の不快感を示す指標として、最大積雪深データ（S47）を面データに変換された「積雪量⁶⁾」を評価因子とした。

表－4 自然作用の評価基準（快適度－積雪度）

単位 mm

評価軸	評価項目	評価因子	評価基準				
			1	2	3	4	5
快適性	積雪度	積雪量	0～50	51～100	101～200	201～300	301～

3. 安全性としての評価指標

(1) 水害危険度

河川や海などの浸食・運搬・堆積作用という地形形成力、特に河川や海による堆積地形について多くの情報を与えていると同時に、今後の水害のおよぶ潜在的危険地域を定性的に表現している「地形分類」を評価因子とした。

(2) 土砂災害危険度－1

地域内の自然斜面や人工斜面の崩壊・地すべり等、潜在的危険性を評価した表層風化層の崩壊や基盤崩壊を対象に、広域的スケールで分布し関与している「地質」を評価因子とした。

(2) 土砂災害危険度－2

(2)について、小地域の斜面単位のスケールで大きく寄与している「傾斜」を評価因子とした。

4. 生産性としての評価指標

(1) 排水・養分含量度

「土壌分類」は生育や耕作に大きく影響していて、その内容は土壌型・土壌の厚さ・土性含
礫量・乾湿・養分含量度等である。

(2) 風化性

開発行為に伴う土地利用の場合、地表の土壌被覆は除去され新たに地表に出現した基礎地質
の物理的・化学的特性が、植物の生育や耕作に影響を与えることになる。したがって「地質－
岩石区分」を評価因子とした。

(3) 生育効率

樹木の生育性に影響をもち生育限界を与える気候・気象条件を評価するが、ここでは気温の
代替指標である「標高」を評価因子とした。

(4) 耕作難易度

耕作の難易性は、傾斜・起伏量・地質および土地利用状況等によって影響を受けるが、ここ
では地表の凸凹状況の指標として「起伏量」を評価因子とした。

5. 利便性としての評価指標

(1) 通勤容易性

通勤の容易性として、「全産業・事業場数」を評価因子とした。

(2) 買物利便性

買物の利便性として、「卸売・小売業事業場数」を評価因子とした。

(3) 医療・公共施設近接性

医療および公共施設への近接性として、「サービス業・事業場数」を評価因子とした。

表－5 社会・経済作用の評価基準（利便性－通勤容易性）

評価軸	評価項目	評価因子	評価基準				
			1	2	3	4	5
利便性	通勤容易性	全産業 事業場数	201～	51～200	6～50	1～5	0

表－6 社会・経済作用の評価基準（利便性－買物利便性）

評価軸	評価項目	評価因子	評価基準				
			1	2	3	4	5
利便性	買物利便性	卸売・小売業 事業場数	6～	4,5	2,3	1	0

表－7 社会・経済作用の評価基準（利便性－医療・公共施設近接性）

評価軸	評価項目	評価因子	評価基準				
			1	2	3	4	5
利便性	医療・公共 施設近接性	サービス業 事業場数	9	4,5	2,3	1	0

Ⅲ 地域環境特性の評価

1. 保健性について

表8に示すとおりレベル1（最も良好）が90.6%（レベル2を含めると98.3%）を占めており、保健性は非常に良かった。レベル5（最も悪い）はなく、レベル4が福井市（レベル4の80.0%）と敦賀市のみにあった。

(1) 空気のさわやかさ-1

レベル1が93.1%であった。レベル3は福井市（市の0.9%、レベル2を含めると40.0%）のみで、他にレベル2が多いのは春江町（町の91.7%）、坂井町（81.8%）、および三国町（36.7%）となっている。

(2) 空気のさわやかさ-2

レベル1が61.5%、レベル2が35.4%でレベル5は全くなかった。レベル4は福井市、敦賀市、鯖江市のみにあり、特に福井市はレベル1が市の20.2%しかなかった。

逆にレベル1が多いのは和泉村（村の全て）、越前町（全て）、越廼村（全て）、名田庄村（全て）、大飯町（98.7%）、および大野市（98.5%）であった。

(3) 静けさ

レベル1が94.6%で、レベル2を含めると97.0%であった。レベル5があるのは福井市（5の43.8%）、鯖江市、敦賀市、小浜市、勝山市および武生市のみであり、特に福井市はレベル4を含めると43.1%（レベル4と5の）となった。

2. 快適性について

レベル3（68.9%）とレベル2で93.5%を占めており、快適性は比較的良かった。レベル5は全くなく、レベル4が多いのは大野市（市の12.1%）、和泉村（10.5%）、福井市（10.1%）、勝山市（6.7%）および今庄町（6.7%）であった。

逆にレベル1が多いのは三国町（町の34.7%）、芦原町（22.2%）、越前町（18.9%）、越廼村（10.5%）で、快適な地域となっている。

表9に結果を示した。

(1) 緑化可能性

レベル1が77.0%で2, 3を含めると93.3%であった。レベル5が多いのは大野市（市の12.2%）、福井市（11.9%）、和泉村（10.2%）および武生市（9.1%）であった。

(2) 高燥・日照度

レベル5が72.5%で、レベル1～3は20.6%であった。レベル1が多かったのは三国町（町の67.3%）、芦原町（65.8%）および松岡町となっている。

表8 保健性

市町村名	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	TOTAL
福井市	217	77	38	4	0	336
敦賀市	234	28	8	1	0	271
武生市	130	39	6	0	0	175
小浜市	231	16	1	0	0	248
大野市	539	0	0	0	0	539
勝山市	240	13	1	0	0	254
鯖江市	44	24	13	0	0	81
美山町	132	0	0	0	0	132
松岡町	18	0	0	0	0	18
永平寺町	48	0	0	0	0	48
上志比村	24	0	0	0	0	24
和泉村	333	0	0	0	0	333
三国町	23	25	1	0	0	49
芦原町	30	6	0	0	0	36
金津町	59	24	0	0	0	83
丸岡町	93	16	0	0	0	109
春江町	0	24	0	0	0	24
坂井町	6	27	0	0	0	33
今立町	39	5	0	0	0	44
池田町	191	0	0	0	0	191
南条町	51	0	0	0	0	51
今庄町	240	0	0	0	0	240
河野村	53	0	0	0	0	53
朝日町	45	0	0	0	0	45
宮崎村	33	0	0	0	0	33
越前町	37	0	0	0	0	37
越廼村	19	0	0	0	0	19
織田町	33	0	0	0	0	33
清水町	40	1	0	0	0	41
三方町	105	0	0	0	0	105
美浜町	162	0	0	0	0	162
上中町	84	0	0	0	0	84
名田庄村	151	0	0	0	0	151
高浜町	85	0	0	0	0	85
大飯町	75	0	0	0	0	75
TOTAL	3844	325	68	5	0	4242

(3) 緑の豊かさ

レベル2が57.9%で3,4を含めると92.0%であった。レベル1が多いのは越前町(町の43.2%, 2を含めると86.5%), 越廼村(26.3%, 2を含めると86.5%), 大野市および美浜町であった。

逆にレベル5が多いのは福井市(レベル5の40.0%, 4を含めると市の47.8%), 三国町(町の19.2%, 4を含めると61.5%)と鯖江市(4を含めると70.4%)であった。

(4) 積雪度

レベル3が33.1%で2,4を含めると82.2%であった。レベル5が多いのは和泉村(村の43.2%), 大野市(41.2%)および勝山市(21.7%)で、逆にレベル1が多いのは三国町(町の89.8%), 芦原町(50.0%), 越廼村(42.1%)と越前町(37.8%)であった。

表9 快適性

市町村名	L1	L2	L3	L4	L5	TOTAL
福井市	8	104	190	34	0	336
敦賀市	8	97	159	7	0	271
武生市	0	42	133	0	0	175
小浜市	6	120	119	3	0	248
大野市	0	32	442	65	0	539
勝山市	0	36	201	17	0	254
鯖江市	0	13	66	2	0	81
美山町	0	19	113	0	0	132
松岡町	0	8	10	0	0	18
永平寺町	0	5	43	0	0	48
上志比村	0	1	23	0	0	24
和泉村	0	1	297	35	0	333
三国町	17	13	19	0	0	49
芦原町	8	13	12	3	0	36
金津町	6	39	36	2	0	83
丸岡町	1	34	72	2	0	109
春江町	0	0	23	1	0	24
坂井町	0	1	32	0	0	33
今立町	0	7	36	1	0	44
池田町	0	6	177	8	0	191
南条町	0	13	38	0	0	51
今庄町	0	6	218	16	0	240
河野村	2	21	30	0	0	53
朝日町	1	27	17	0	0	45
宮崎村	1	21	11	0	0	33
越前町	7	15	15	0	0	37
越廼村	2	12	5	0	0	19
織田町	0	7	26	0	0	33
清水町	0	20	21	0	0	41
三方町	0	67	38	0	0	105
美浜町	5	93	64	0	0	162
上中町	3	29	52	0	0	84
名田庄村	0	24	127	0	0	151
高浜町	1	59	24	1	0	85
大飯町	0	40	34	1	0	75
TOTAL	76	1045	2923	198	0	4242

表10 安全性

市町村名	L1	L2	L3	L4	L5	TOTAL
福井市	9	163	149	16	0	337
敦賀市	0	53	200	26	0	279
武生市	5	89	69	12	0	175
小浜市	5	92	143	18	0	258
大野市	3	210	293	41	0	547
勝山市	4	167	77	9	0	257
鯖江市	2	36	39	4	0	81
美山町	1	73	51	7	0	132
松岡町	0	15	3	0	0	18
永平寺町	0	36	11	1	0	48
上志比村	0	10	12	2	0	24
和泉村	0	182	161	0	0	343
三国町	5	17	29	1	0	52
芦原町	0	13	25	0	0	38
金津町	1	54	23	7	0	85
丸岡町	0	76	28	12	0	116
春江町	0	7	17	0	0	24
坂井町	0	6	25	2	0	33
今立町	0	26	14	4	0	44
池田町	0	52	129	11	0	192
南条町	0	17	32	2	0	51
今庄町	0	40	207	5	0	252
河野村	3	20	29	1	0	53
朝日町	4	25	13	3	0	45
宮崎村	4	16	12	1	0	33
越前町	2	33	2	0	0	37
越廼村	3	15	1	0	0	19
織田町	0	20	12	1	0	33
清水町	3	20	18	0	0	41
三方町	3	36	55	12	1	107
美浜町	0	71	88	8	1	168
上中町	2	50	29	5	0	86
名田庄村	0	29	121	7	0	157
高浜町	2	56	31	3	0	92
大飯町	2	31	44	4	0	81
TOTAL	63	1856	2192	225	2	4338

3. 安全性について

レベル3(50.5%)とレベル2で93.3%で安全性は比較的良かった。レベル4と5が多いのは三方町(町の12.1%), 丸岡町(10.3%)および敦賀市(9.3%)であった。

表10に結果を示した。

(1) 水害危険度

レベル1が77.5%で2,3を含めると93.0%であった。レベル4と5が多かったのは坂井町(町の78.8%), 春江町(70.8%), 芦原町(34.2%)および三国町(32.7%)であった。

(2) 土砂災害危険度－1

レベル3と4で60.3%であった。レベル1が多いのは上中町（町の59.3%），勝山市（50.6%），越前町（48.6%，2を含めると86.5%）であり，レベル5が多いのは名田庄村（村の71.3%），芦原町（52.6%），三国町（51.9%）および小浜市（40.7%）であった。

(3) 土砂災害危険度－2

レベル4と5で67.1%で3を含めると82.0%であった。レベル1が多いのは芦原町（町全て），春江町（95.8%），坂井町（93.9%）および清水町（53.7%，2を含めると63.4%）であった。

4. 生産性について

表11に示すとおりレベル3（57.7%）と2で91.8%であり，生産性は比較的よかった。レベル4が多いのは大野市（市の23.8%）および和泉村（23.3%）であった。

(1) 排水・養分含量度

レベル2（57.4%）とレベル4（25.8%）の2山タイプであり，3を含めると92.8%であった。

レベル5が多いのは三国町（町の46.2%，4を含めると51.9%），福井市（14.2%）および大野市（12.2%）となっている。

(2) 風化性

レベル2（36.2%）と1で65.7%であった。レベル5が多いのは上中町（町の16.3%），名田庄村（10.8%）および小浜市（9.3%）である。

(3) 生育効率

レベル1（37.1%）と2，3で81.8%であった。レベル5が多いのは大野市（市の22.5%，4を含めると57.4%），和泉村（21.5%，4を含めると78.5%）および勝山市（12.5%）であった。

(4) 耕作難易度

レベル5（52.2%）と4で80.1%であった。レベル1が多いのは春江町（町全て），坂井町（全て）および鯖江市（38.3%）であり，逆にレベル5が多いのは和泉村（村の82.6%），大野市（78.6%）と越廼村（78.6%）であった。

5. 利便性について

レベル5が75.6%となり，レベル1～3で19.9%であるが森林等を含めた県下全域を対象としているため，昭和55年国勢調査結果で人が住んでいる地域（以下，居住地面積）当たりでみると，レベル1～3で60.1%となりほぼ満足している結果となった。

レベル1が多いのは鯖江市（市の29.6%，2を含めると48.1%），春江町（29.2%，2を含めると

表11 生産性

市町村名	L1	L2	L3	L4	L5	TOTAL
福井市	0	206	121	0	0	327
敦賀市	0	51	206	4	0	261
武生市	0	88	86	1	0	175
小浜市	0	62	151	13	0	226
大野市	0	73	343	130	1	547
勝山市	0	73	145	39	0	257
鯖江市	0	55	26	0	0	81
美山町	0	83	49	0	0	132
松岡町	0	12	6	0	0	18
永平寺町	0	26	22	0	0	48
上志比村	0	13	11	0	0	24
和泉村	0	2	258	79	0	339
三国町	0	27	16	0	0	43
芦原町	0	23	12	0	0	35
金津町	0	69	16	0	0	85
丸岡町	0	60	53	3	0	116
春江町	0	19	5	0	0	24
坂井町	0	32	1	0	0	33
今立町	0	35	9	0	0	44
池田町	0	36	139	17	0	192
南条町	0	18	33	0	0	51
今庄町	0	46	178	26	2	252
河野村	0	25	22	0	0	47
朝日町	2	37	6	0	0	45
宮崎村	0	17	16	0	0	33
越前町	0	23	11	0	0	34
越廼村	0	7	7	0	0	14
織田町	0	11	22	0	0	33
清水町	0	33	8	0	0	41
三方町	0	26	54	5	0	85
美浜町	0	27	111	9	0	147
上中町	0	34	45	7	0	86
名田庄村	0	27	126	4	0	157
高浜町	0	29	48	0	0	77
大飯町	0	18	49	0	0	67
TOTAL	2	1423	2411	337	3	4176

と62.5 %), 坂井町 (2 を含めて33.3 %), 三国町 (32.7 %), 越前町 (32.4 %) および福井市 (31.2 %) であった。

表 12 に結果を示した。

(1) 通勤容易性

レベル 5 が73.7 %でレベル 1～3 が21.3 %となっているが, 居住地面積当たりでみるとレベル 1～3 で64.4 %となっている。レベル 1 と 2 が多いのは鯖江市 (市の34.6 %), 春江町 (33.3 %) および松岡町 (22.2 %) で, 逆にレベル 5 が多いのは和泉村 (村の98.3 %), 池田町 (91.1 %) と名田庄村 (90.4 %) であった。

(2) 買物利便性

レベル 5 が79.4 %であるが, 居住地面積当たりでみるとレベル 1～3 で55.0 %になっている。レベル 1 が多いのは春江町 (町の62.5 %), 鯖江市 (45.7 %), 坂井町 (36.4 %), 三国町 (28.8 %) と福井市 (28.5 %) であり, 逆にレベル 5 が多いのは和泉村 (村の99.1 %), 今庄町 (94.0 %), 大野市 (93.1 %), 池田町 (91.7 %) および名田庄村 (91.1 %) であった。

(3) 医療・公共施設近接性

レベル 5 が76.6 %でレベル 1～3 が19.1 %であるが, 居住地面積当たりでみると57.7 %あった。レベル 1 が多いのは春江町 (町の41.7 %), 鯖江市 (37.0 %), 越前町 (32.4 %) と三国町 (30.8 %) で, 逆にレベル 5 が多いのは和泉村 (村の98.8 %), 池田町 (92.7 %), 今庄町 (92.5 %), 大野市 (91.0 %) および名田庄村 (90.4 %) であった。

表 12 利 便 性

市町村名	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	TOTAL
福 井 市	50	55	48	27	157	337
敦 賀 市	12	25	6	15	221	279
武 生 市	22	18	21	10	104	175
小 浜 市	10	20	16	13	199	258
大 野 市	5	17	14	15	496	547
勝 山 市	5	16	14	10	212	257
鯖 江 市	24	15	19	5	18	81
美 山 町	1	5	13	9	104	132
松 岡 町	3	2	4	2	7	18
永 平 寺 町	2	1	6	6	33	48
上 志 比 村	3	1	2	0	18	24
和 泉 村	1	1	0	2	339	343
三 国 町	6	11	8	8	19	52
芦 原 町	2	10	6	1	19	38
金 津 町	2	9	11	7	56	85
丸 岡 町	6	10	15	7	78	116
春 江 町	7	8	4	1	4	24
坂 井 町	1	10	10	1	11	33
今 立 町	6	5	9	5	19	44
池 田 町	1	3	11	2	175	192
南 条 町	1	2	7	4	37	51
今 庄 町	1	2	11	6	232	252
河 野 村	0	6	2	0	45	53
朝 日 町	1	6	8	5	25	45
宮 崎 村	0	6	2	1	24	33
越 前 町	5	7	1	1	23	37
越 廼 村	1	1	4	0	13	19
織 田 町	1	3	5	3	21	33
清 水 町	1	8	13	3	16	41
三 方 町	2	18	5	6	76	107
美 浜 町	4	17	4	3	140	168
上 中 町	1	11	9	3	62	86
名 田 庄 村	0	4	9	2	142	157
高 浜 町	4	4	4	6	74	92
大 飯 町	2	8	4	5	62	81
TOTAL	193	345	325	194	3281	4338

表 13 快 適 環 境

市町村名	L 1	L 2	L 3	L 4	L 5	TOTAL
福 井 市	0	141	186	0	0	327
敦 賀 市	0	36	218	0	0	254
武 生 市	0	59	116	0	0	175
小 浜 市	0	47	175	0	0	222
大 野 市	0	42	497	0	0	539
勝 山 市	0	41	213	0	0	254
鯖 江 市	0	47	34	0	0	81
美 山 町	0	20	112	0	0	132
松 岡 町	0	11	7	0	0	18
永 平 寺 町	0	13	35	0	0	48
上 志 比 村	0	4	20	0	0	24
和 泉 村	0	2	327	0	0	329
三 国 町	3	20	20	0	0	43
芦 原 町	0	19	16	0	0	35
金 津 町	0	38	45	0	0	83
丸 岡 町	0	34	75	0	0	109
春 江 町	0	14	10	0	0	24
坂 井 町	0	13	20	0	0	33
今 立 町	0	23	21	0	0	44
池 田 町	0	7	184	0	0	191
南 条 町	0	13	38	0	0	51
今 庄 町	0	12	228	0	0	240
河 野 村	0	14	33	0	0	47
朝 日 町	0	32	13	0	0	45
宮 崎 村	0	22	11	0	0	33
越 前 町	3	13	18	0	0	34
越 廼 村	0	9	5	0	0	14
織 田 町	0	11	22	0	0	33
清 水 町	1	25	15	0	0	41
三 方 町	0	26	58	0	0	84
美 浜 町	0	27	119	0	0	146
上 中 町	0	29	55	0	0	84
名 田 庄 村	0	12	139	0	0	151
高 浜 町	0	25	49	0	0	74
大 飯 町	0	17	48	0	0	65
TOTAL	7	918	3182	0	0	4107

6. 快適環境について

レベル3が77.5%で、2を含めると99.9%になり、比較的快適な環境にあることがわかった。レベル4と5は全くなかった。

レベル1があったのは越前町（町の8.9%，2を含めると47.1%），三国町（7.0%，2を含めると53.5%）と清水町（2.4%，2を含めると63.4%）しかなく、他にレベル2が多いのは朝日町（町の71.1%），宮崎村（66.7%），松岡町（61.1%），春江町（58.3%），鯖江市（58.0%），芦原町（54.3%）および今立町（52.3%）であった。

表13に結果を示した。

地域環境評価図を、図2 通勤容易性、図3 空気のさわやかさ-2、図4 積雪度、図5 保健性、図6 快適性、図7 安全性、図8 生産性、図9 利便性、図10 快適環境特性として示した。

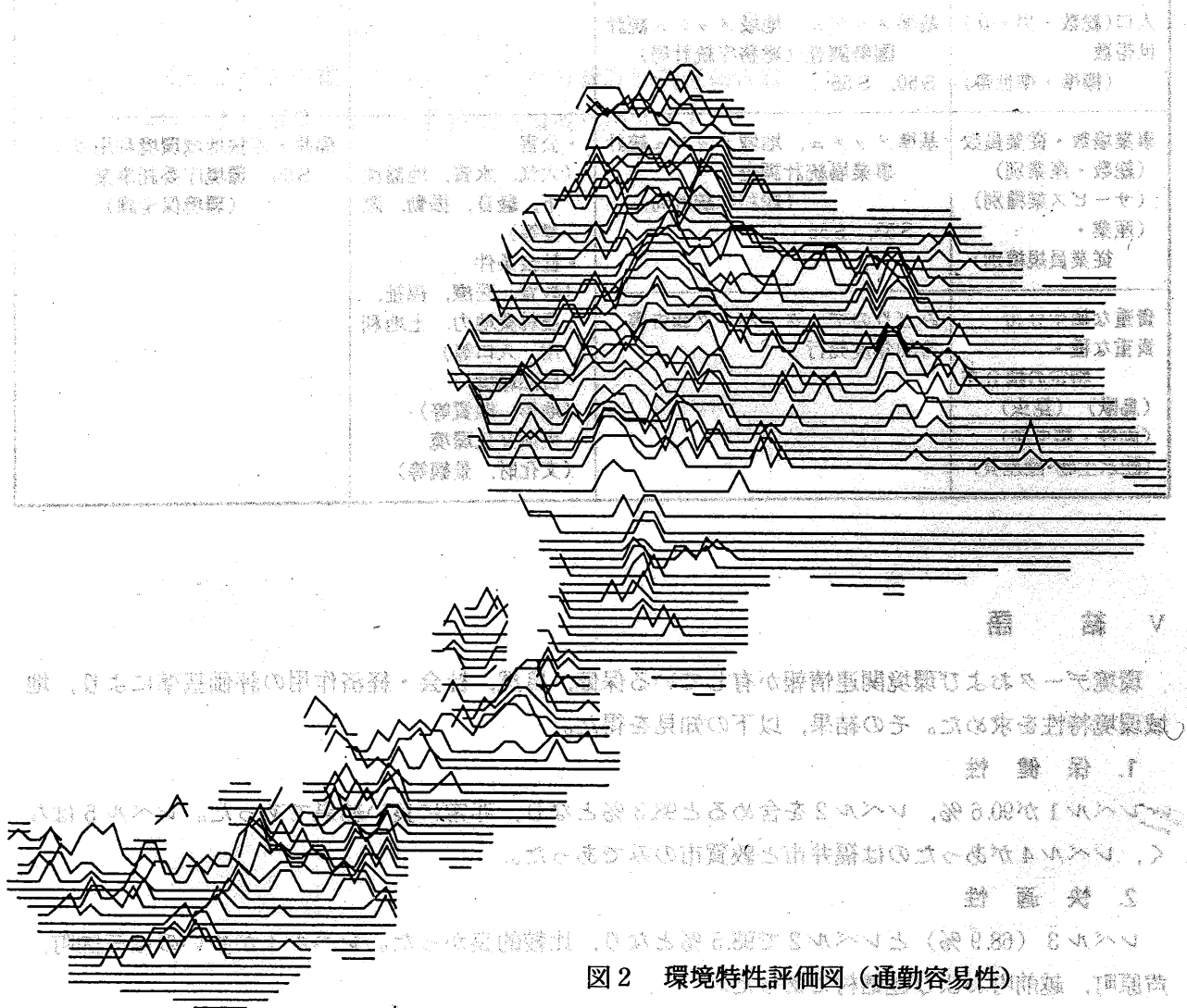


図2 環境特性評価図（通勤容易性）

IV 環境情報のメッシュ化について

環境情報データのメッシュ化作業を昭和58年より行なっているが、今後も継続して行くと同時に、作業が完了している情報についても必要に応じて、見直し（追加、修正）を行っていく予定である。

表14に、メッシュ化が完了している情報を示した。

表14 メッシュ化が完了している環境情報

環境情報名	備 考	環境情報名	備 考
植 生 自 然 度	1/2 メッシュ, 1/20 万地図 S 50	・表層地質・地形分類 土壌分類 ・標高データ ・平均・最高・最低 起伏量 ・傾斜度・高度 ・土地利用面積 ・1/10 細分区画 土地利用 ・道路密度 ・指定地域面積	基準メッシュ 国土数値情報 (建設省国土地理院)
現 存 植 生	1/2 メッシュ, 1/5 万地図 S 56 未調査あり (永平寺・白山・大野・白鳥・ 八幡・能郷白山・舞鶴・熊川)		
生 物 分 布 哺乳類大型7獣	5kmメッシュ, 1/20 万地図 S56		
すぐれた自然 特定植物群落	基準メッシュ, 1/20 万地図 S56 59群落		
人口(総数・男・女) 世帯数 (標準・準世帯)	基準メッシュ, 地域メッシュ統計 国勢調査(総務庁統計局) S50, S55		
事業場数・従業員数 (総数・産業別) (サービス業種別) (産業・ 従業員規模別)	基準メッシュ, 地域メッシュ統計 事業場統計調査 (総務庁統計局) S53, S56	・公害 (大気, 水質, 地盤沈 下, 騒音, 振動, 悪 臭等) ・社会条件 (教育, 医療, 福祉, 農林業地力, 土地利 用, 人口等) ・自然環境 (地形, 地質等) ・生活文化環境 (文化財, 景観等)	福井・若狭地域環境利用ガイド S60 環境庁委託事業 (環境保全課)
貴重な植生分布 貴重な種・ 特定の種分布 (鳥獣)(昆虫) (両性・爬虫類) (陸水生物・陸産貝)	みどりのデータ・バンク 報告書 S60年度発行		

V 結 語

環境データおよび環境関連情報が有している保健, 自然, 社会・経済作用の評価基準により, 地域環境特性を求めた。その結果, 以下の知見を得た。

1. 保 健 性

レベル1が90.6%, レベル2を含めると98.3%となり, 非常に良い結果であった。レベル5はなく, レベル4があったのは福井市と敦賀市のみであった。

2. 快 適 性

レベル3(68.9%)とレベル2で93.5%となり, 比較的良かった。レベル1が多いのは三国町, 芦原町, 越前町および越廼村であった。

3. 安 全 性

レベル3(50.5%)とレベル2で93.3%で, 比較的良かった。レベル4と5が多いのは三方町, 丸岡町および敦賀市であった。

4. 生 産 性

レベル3(57.7%)とレベル2で91.8%となり, 比較的良かった。レベル4が多いのは大野市と和泉村であった。

5. 利 便 性

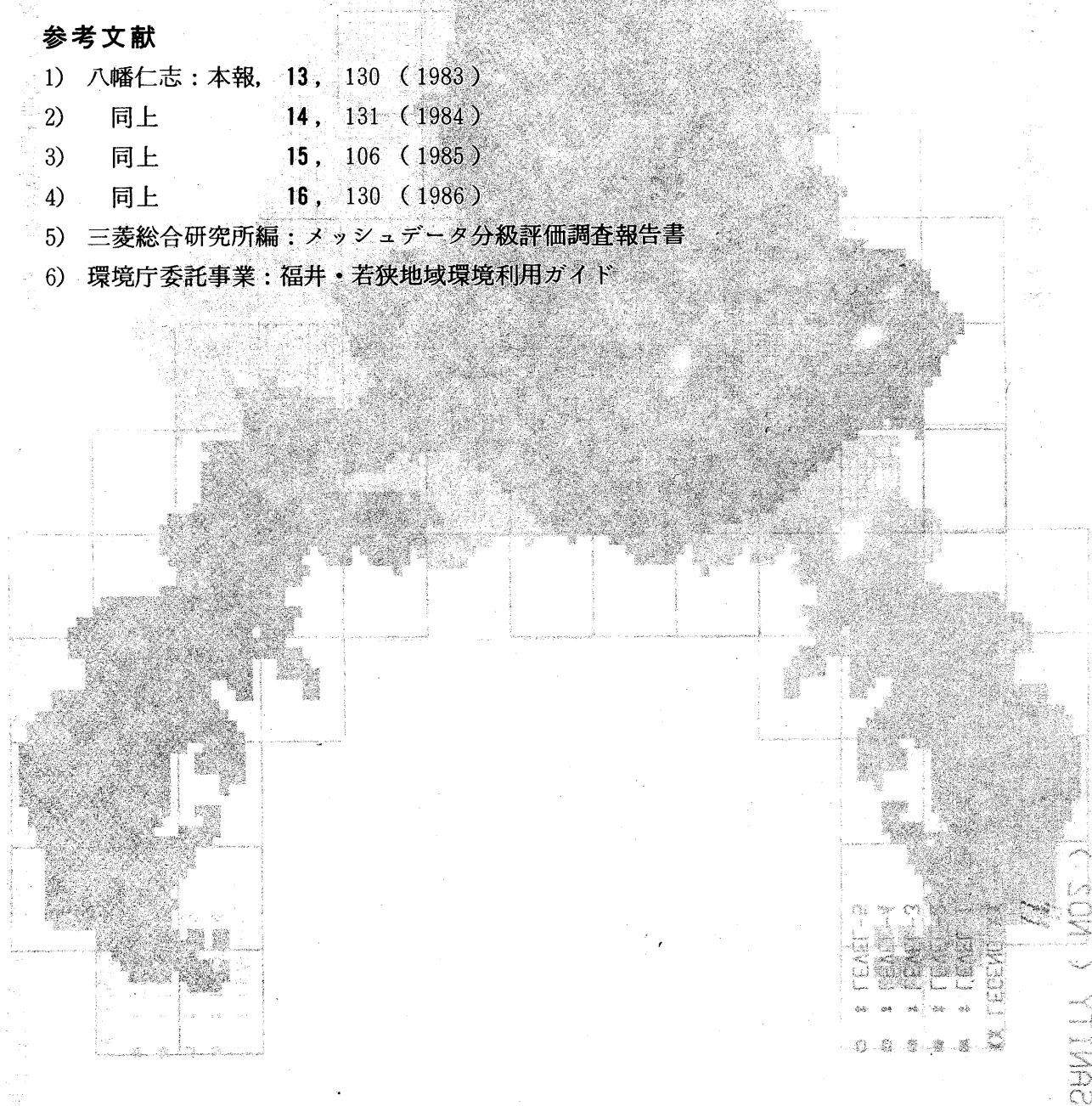
居住地面積当たりでみるとレベル1～3で60.1%となり、ほぼ満足している結果となった。レベル1が多いのは鯖江市、春江町、坂井町、三国町、越前町および福井市であった。

6. 快 適 環 境

レベル3が77.5%で、レベル2を含めると99.9%となり、比較的快適な環境にあることがわかった。レベル1があったのは越前町、三国町と清水町のみで、他に快適な地域として朝日町、宮崎村、松岡町、鯖江市、芦原町と今立町となった。

参考文献

- 1) 八幡仁志：本報，13，130（1983）
- 2) 同上 14，131（1984）
- 3) 同上 15，106（1985）
- 4) 同上 16，130（1986）
- 5) 三菱総合研究所編：メッシュデータ分級評価調査報告書
- 6) 環境庁委託事業：福井・若狭地域環境利用ガイド



SANITY (NO2)

** LEGEND **
 ■ : LEVEL-1
 ■ : LEVEL-2
 ■ : LEVEL-3
 ■ : LEVEL-4
 □ : LEVEL-5

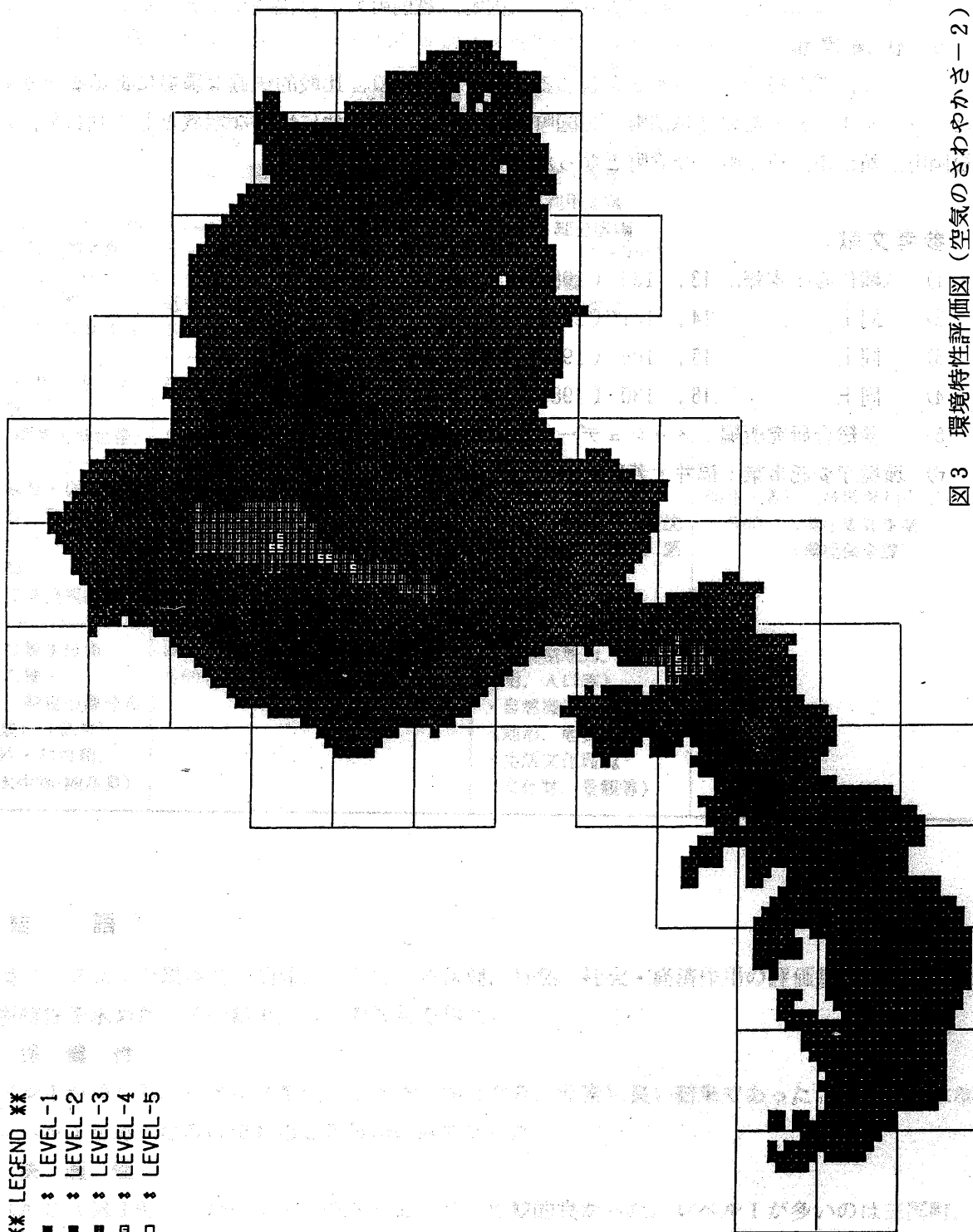
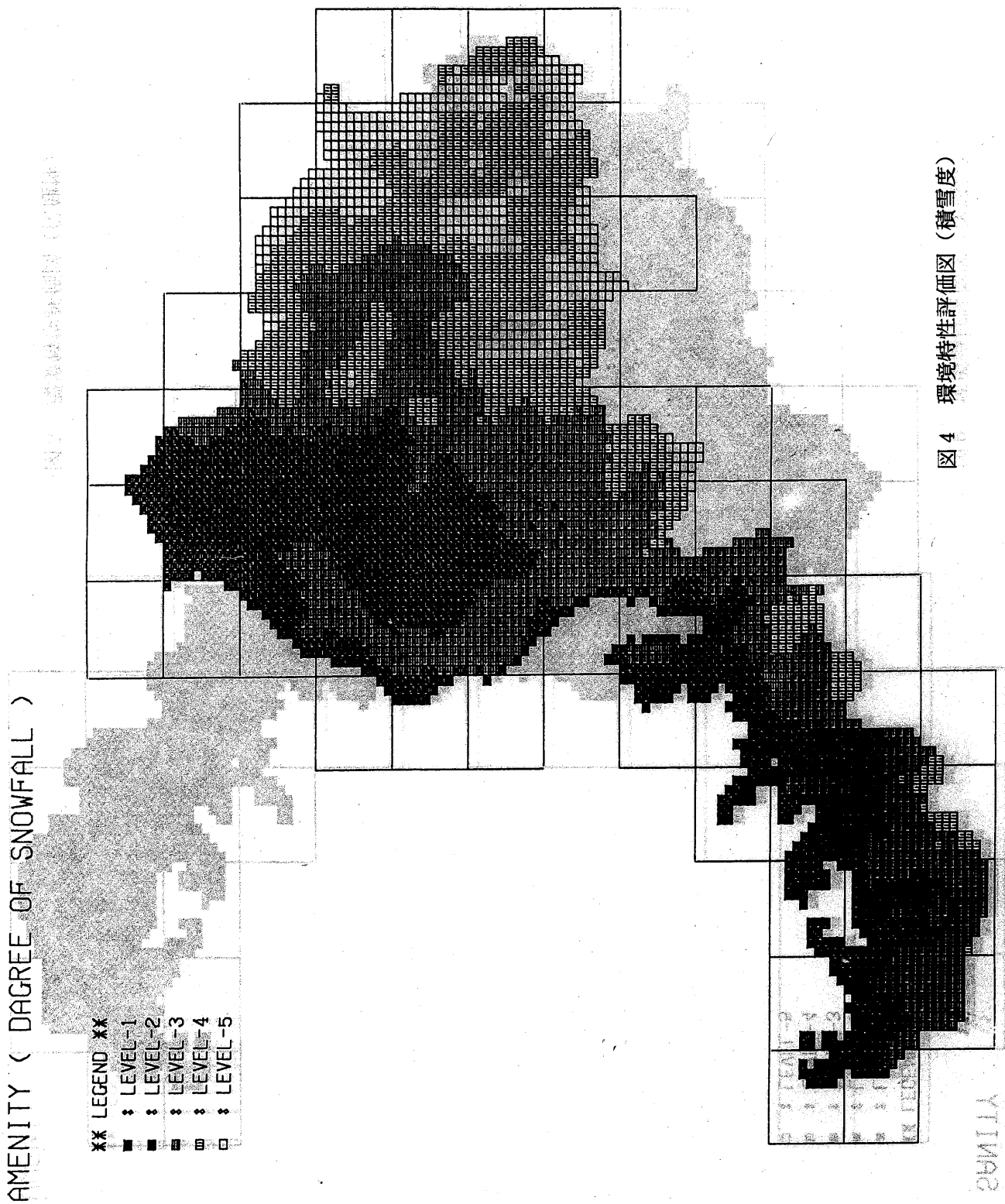


図3 環境特性評価図（空気のさわやかさ-2）



SANITY

- ** LEGEND **
 ■ : LEVEL-1
 ■ : LEVEL-2
 ■ : LEVEL-3
 ■ : LEVEL-4
 □ : LEVEL-5

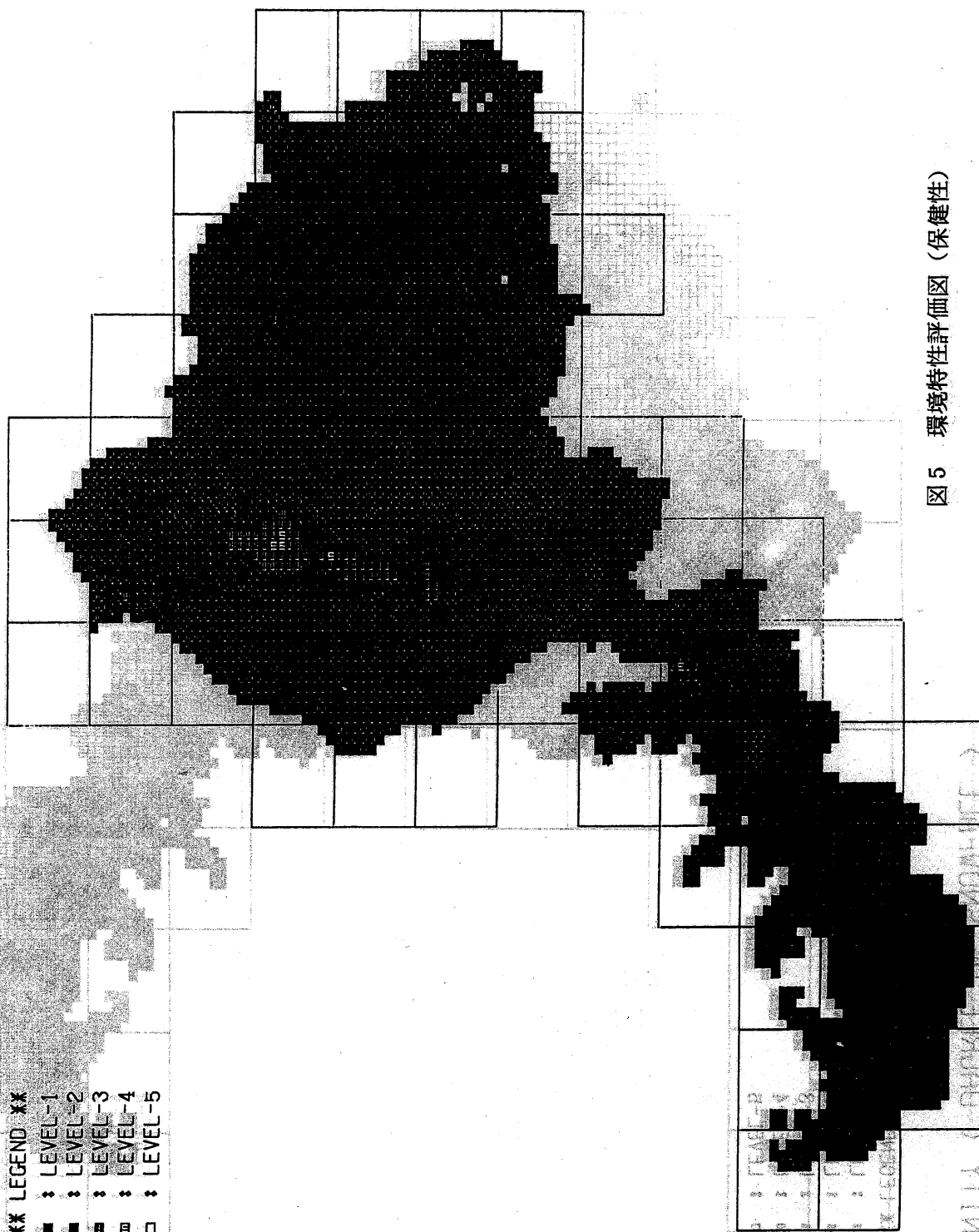


図5 環境特性評価図（保健性）

AMENITY

** LEGEND **
 ■ : LEVEL-1
 ■ : LEVEL-2
 ■ : LEVEL-3
 ■ : LEVEL-4
 □ : LEVEL-5

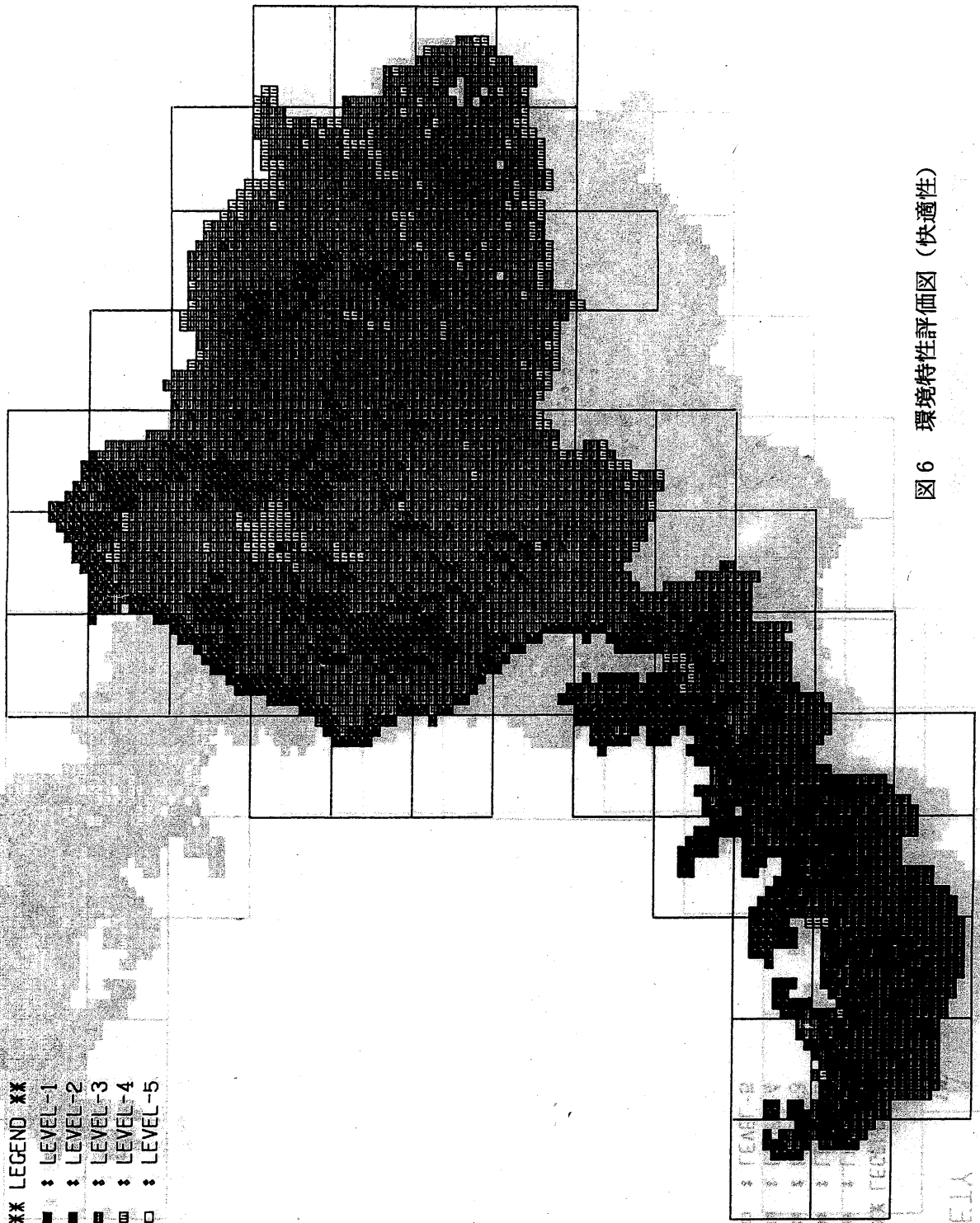


図 6 環境特性評価図（快適性）

SAFETY

- ** LEGEND **
 ■ : LEVEL-1.
 ■ : LEVEL-2
 ■ : LEVEL-3
 ■ : LEVEL-4
 □ : LEVEL-5

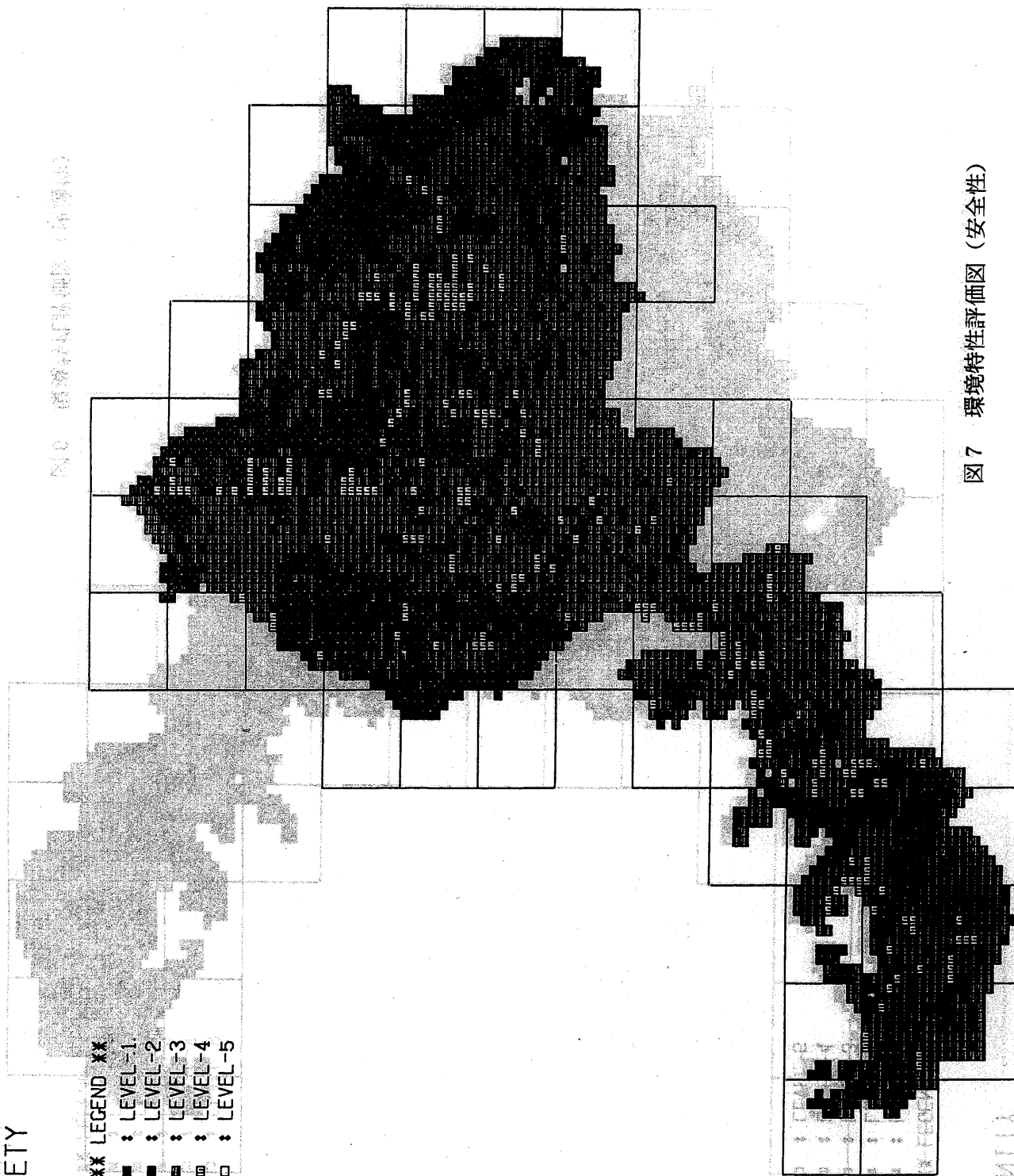


図 7 環境特性評価図 (安全性)

PRODUCTIVITY

** LEGEND **
 ■ : LEVEL-1
 ■ : LEVEL-2
 ■ : LEVEL-3
 ■ : LEVEL-4
 ■ : LEVEL-5

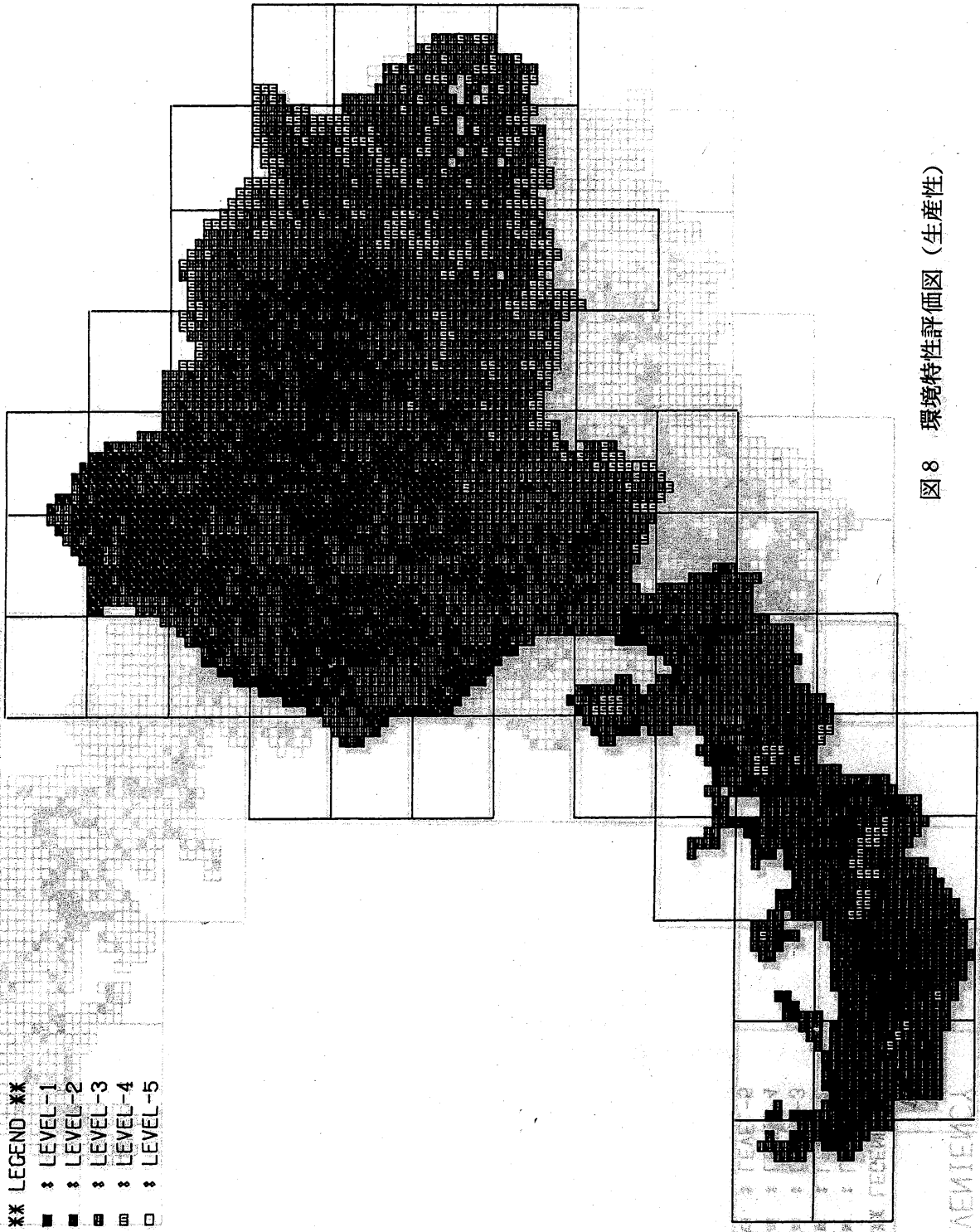


図 8 環境特性評価図（生産性）

CONVENIENCY

** LEGEND **
 ■ LEVEL-1
 ■ LEVEL-2
 ■ LEVEL-3
 ■ LEVEL-4
 □ LEVEL-5

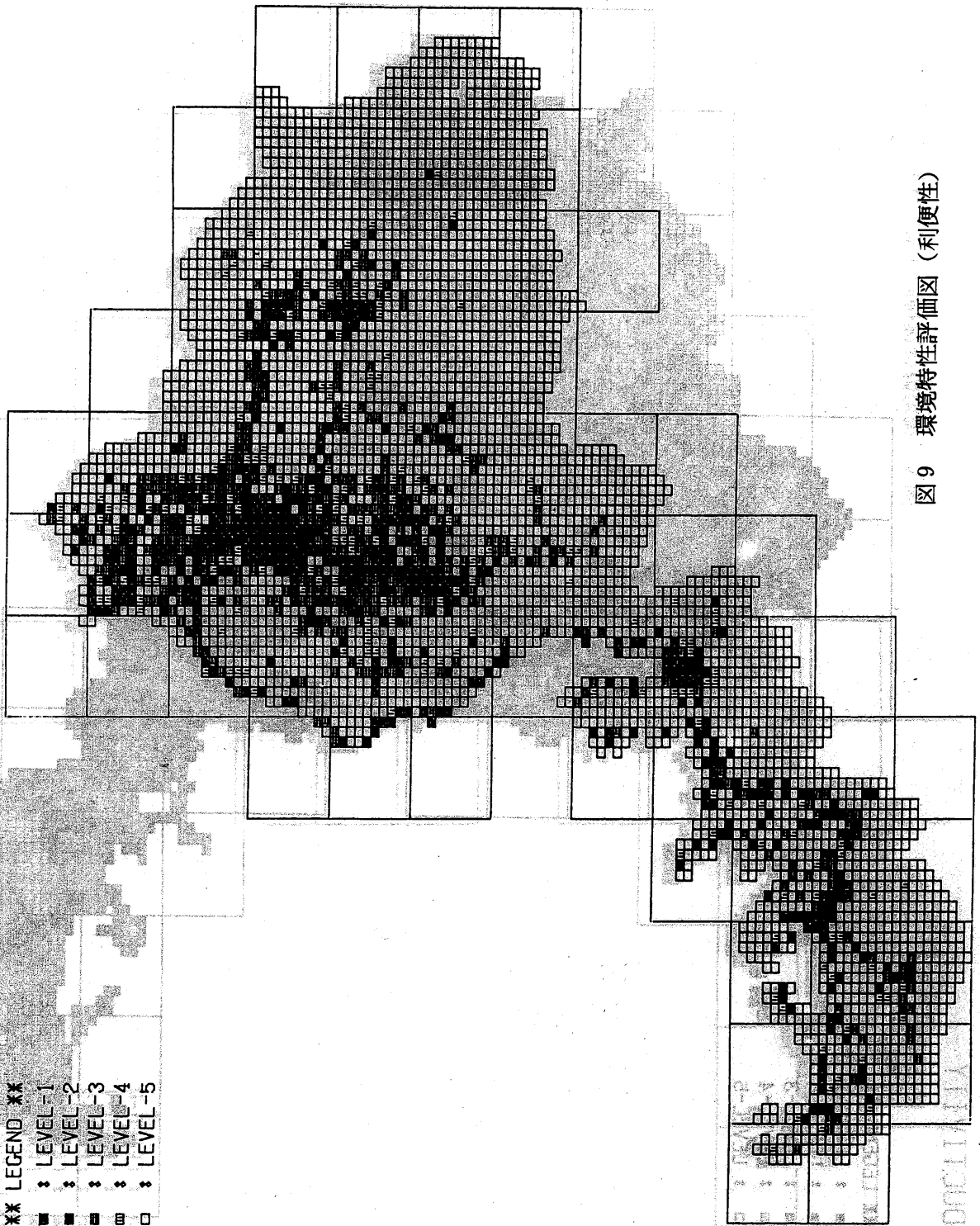


図 9 環境特性評価図 (利便性)

ENVIRONMENTAL-AMENITY

- ENVIRONMENTAL-AMENITY
- LEGEND. **
- LEVEL-1
 - LEVEL-2
 - LEVEL-3
 - LEVEL-4
 - LEVEL-5

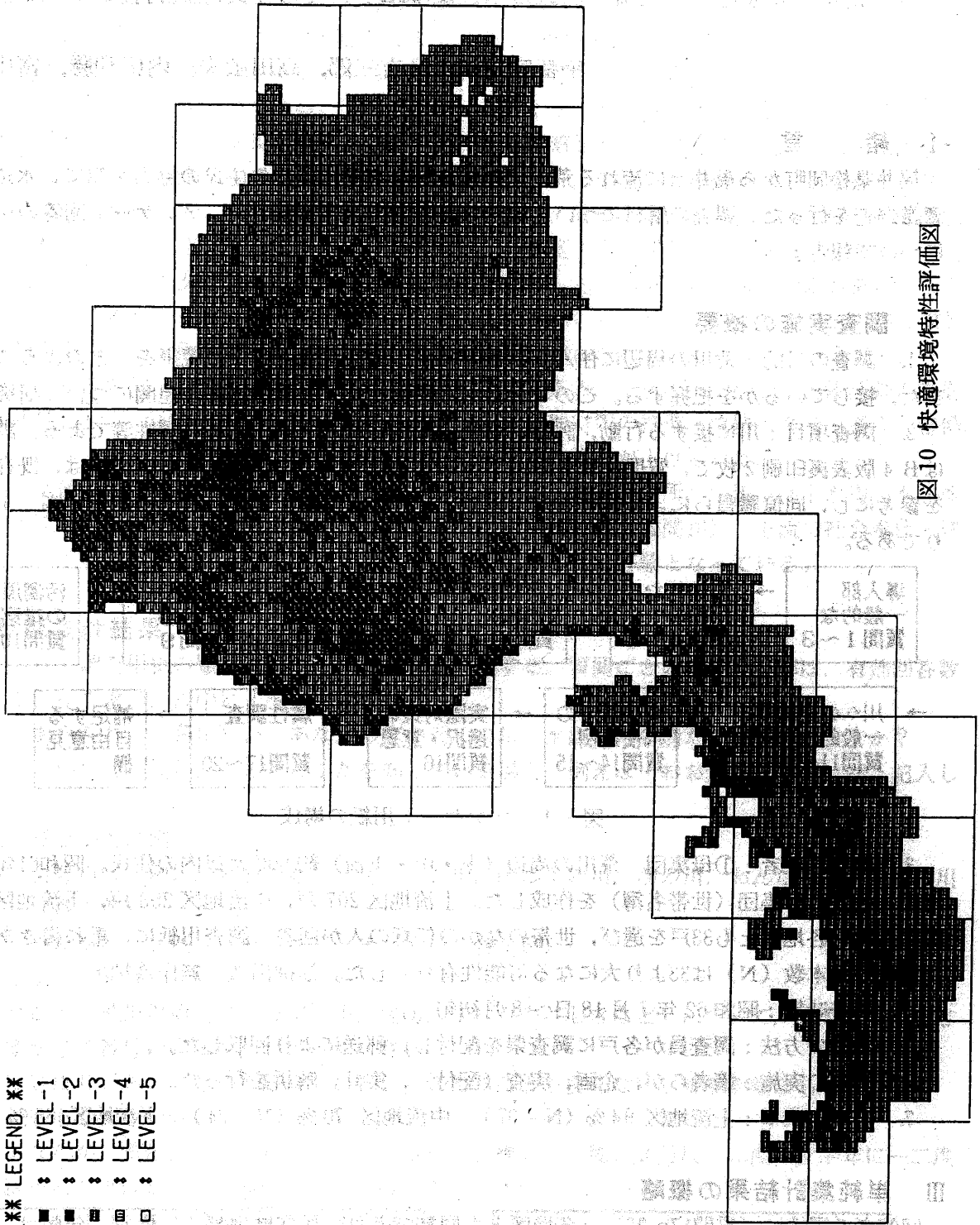


図10 快適環境特性評価図